

# 青森県海区だより

(発行 2008年 1月31日 第22号)

〒030-8570 青森市長1 1 1  
 青森県海区漁業調整委員会事務局  
 TEL 017-734-9851  
 FAX 017-734-8166  
 e-mail Kaiku@pref.aomori.lg.jp  
 HP http://www.pref.aomori.lg.jp/kaiku/



## 第49回青森県漁村青壮年女性団体活動実績 発表大会・漁業技術検討会議開催

青森県内の漁村青壮年女性団体の代表者が一堂に会し、活動実績の発表を通して知識の交換と活動意欲の向上を図り、沿岸漁業の振興及び漁村生活改善等に寄与することを目的に、1月23日に県民福祉プラザで開催されました。各地区から5課題の発表があり、審査の結果、佐井村漁業協同組合佐井村漁業研究会福田弘一さんの「ウニの移植で磯焼け時代を生き抜くーみんなで活かす未利用資源」が優秀賞に選ばれました。

3月に東京の厚生年金会館で開催される全国大会に青森県代表として出場します。



(優秀賞に選ばれ、原口水産局長から表彰を受ける佐井漁協の福田さん) 発表課題、団体及び発表者は次のとおりです。

発表課題	所属団体・発表者
ホタテガイ養殖管理の改善に向けて 蟹田沖における餌料変動と ユウレイボヤ室内実験	外ヶ浜漁業協同組合 蟹田青年部 高森 優
小川原湖の宝を守る ヤマトシジミの資源回復に向けて	小川原湖漁業協同組合 蜆生産部会 鶴ヶ崎 純一
ヤリイカ産卵礁設置試験及びふ化試験 地先資源回復を目指してー	新深浦町漁業協同組合 北金ヶ沢漁業振興会 田附 直人
養殖アカガイの生産安定化へ向けて ポストホタテガイを目指してー	川内町漁業協同組合 青年部 美濃部 文和
ウニの移植で磯焼け時代を生き抜く みんなで活かす未利用資源	佐井村漁業協同組合 佐井村漁業研究会 福田 弘一

翌24日には、県水産ビルにおいて23日に発表した課題を更に議論を高めるために漁業技術検討会議が開催され、活発な意見交換が行われました。

## 平成19年度奥入瀬川さけ釣りアンケート調査結果の集計

県南の奥入瀬川では、昨年10月20日から12月9日までの期間に、奥入瀬サーモンフィッシングとして、奥入瀬川さけ有効利用事業実行委員会が主催しさけ釣り調査が行われました。県内外から921人の申し込みがあり、そのうち、656人の参加があり、1,262尾の釣果がありました。1人当たりの釣獲率は、2.09尾と昨年の1.65尾を上廻りました。

回答者	釣獲数(制限10尾)尾/人				釣獲率
	餌	ルアー	フライ	計	
604人	119尾 /49人	1008尾 /484人	135尾 /71人	1,262尾 /604人	2.09尾

(奥入瀬川さけ有効利用事業実行委員会事務局調べ・ホームページから抜粋)



(奥入瀬川さけ釣り調査：水産振興課写真提供)

## トドの出現等に関する情報

青森県では、トドにより多大な漁業被害が最近冬期間に集中していることから青森県西部海区、東部海区の両漁業調整委員会は、今季から合計4頭を上限として、トドの採捕措置に係る委員会指示を昨年9月28日に発動しております。この度、トドの出現等に関する情報として、(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所生態系研究室の服部薫研究員から資料の提供を頂きましたので、今後3回に渡ってトドの分布、回遊、生態について掲載していきます。



トドは、メスで体長2.5m、体重350kg、オスで体長3m、体重1トンにもなるアシカ科最大の哺乳類で、中央カリフォルニアからアリューシャン列島、千島列島を経て日本北部までの北太平洋沿岸域に広く生息しています。摂餌を水中で、繁殖や休憩を陸上で行い、繁殖期には、千島列島やアリューシャン列島などの繁殖場に集まり、成獣のオスは10頭前後のメスを囲い込んでハレムを形成しています。北海道等

(岩場に休憩しているトド) の日本周辺には、繁殖場はなく、秋から冬にかけて千島列島やサハリン周辺のロシア海域から  
 北海道区水産研究所写真提供 摂餌と越冬のためにやってくるものと考えられて  
 撮影場所：北海道石狩市浜益区 います。日本海側では、1,2月をピークに、利尻・礼文島および石狩湾周辺海域、一部は、石狩湾以南へ南下し近年では、青森県下北半島、陸奥湾湾口部周辺海域にまで達しています。』

(第1回掲載・北海道区水産研究所生態系研究室：服部研究員)

## 【最近の青森県周辺海域のトド出現状況】

12月28日以降、脇野沢村漁協、佐井村漁協、外ヶ浜町漁協管内でトドによる漁業被害が報告されています。また、1月9日、11日、23日、29日に、佐井村漁協管内で1頭目撃されています。

## 大型クラゲ情報



山陰から北陸は収束傾向で推移しています。新潟県、岩手県など北部海域では引き続き数十から最大100個を超える出現が見られていますが、徐々に収束傾向となりつつあります。

(社)漁業情報サービスセンター大型クラゲの出現情報から抜粋)

【1月30日現在】

## 2月のスケジュール

- 2月 5日 第17期第9回内水面漁場管理委員会(青森市)
  - ・ 漁業権一斉切替に係る免許内容の事前決定について(諮問)
  - ・ 遊漁規則の変更の認可について(諮問)
 (協議会)平成20年度増殖計画(案)について(青森市)
- 2月 6日 第18期第20回東部海区漁業調整委員会(青森市)
  - ・ 漁業権一斉切替に係る免許内容の事前決定について(諮問)
  - ・ 青森県海面漁業調整規則の一部改正について(諮問)
  - ・ 小型いか釣り漁業の集魚灯の光力制限に係る委員会指示について
  - ・ 5トン未満の動力漁船によるいか釣り漁業の操業制限について
- 2月 7日 第18期第22回西部海区漁業調整委員会(青森市)
  - ・ 漁業権一斉切替に係る免許内容の事前決定について(諮問)
  - ・ 青森県海面漁業調整規則の一部改正について(諮問)
  - ・ 小型いか釣り漁業の集魚灯の光力制限に係る委員会指示について
  - ・ 5トン未満の動力漁船によるいか釣り漁業の操業制限について

## 事務局から

委員、並びに水産関係者の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年の青森県の漁業を取り巻く状況を振り返ってみますと、全県的にスルメイカの回復の兆しがみられ、津軽海峡のマグロ、太平洋八戸沖のサバが好調に推移しましたが、サケが不調となりました。また、昨年も大型クラゲが秋頃から出現し、現在もおお定置網等に入り影響を与えています。更に、燃油高騰、魚価の低迷等が依然として続いており、厳しい状況となっております。本年は、漁業権一斉切替、海区委員会及び内水面漁場管理委員会の委員の改選時期であり、大きな節目の年です。事務局としても委員の皆様をはじめとして、関係各位のご協力を頂きながら本県水産業の振興に寄与して参りたいと考えております。最後に皆様のご健勝とご活躍を祈念して、新年のご挨拶といたします。